

災害拠点病院（2019年11月現在）九州・沖縄

福岡県				
	浸水時搬送計画の有無 「—」浸水域に立地していない	受水槽容量 単位 日分	通常費の発電量 単位 割	優先使用運用順の取り決め
久留米大	有	2.9	6	有
北九州総合	—	2	7	有
北九州市立八幡	—	3.2	12	有
JCHO九州	—	5	10	有
北九州市立医療セ	計画中	4.4	6	有
佐賀県				
佐賀大	無	3.8	6.5	有
長崎県				
佐世保総合医療セ	—	1	6	無
北松中央	—	1	4	有
国・長崎医療セ	—	1	3	有
熊本県				
熊本赤十字	—	3	8	無
上天草総合	—	3	6	無
大分県				
臼杵市医師会立コスモス	—	3	8	有
鹿児島県				
鹿児島市立	無	0.5	6	無

沖縄県				
中頭	—	2	6	有

読売新聞で災害拠点病院にアンケートを依頼し回答のあった中から各都道府県別162病院の一覧表となったのがこの表です。

742病院が災害拠点病院として都道府県から指定されている。そのうち355病院(48%)から回答があった。

掲載されている病院は災害時の役割分担、運用ついて、地元市町村との話し合いがあるとした所です。

読売新聞 2020年4月15日 朝刊

新型コロナウイルスの問題で医療崩壊の言葉ばかりを報道で見聞きしていますが、私たちの住む日本は地震も多発します。

これからの季節は大雨、台風にも十分に注意しなければなりません。その災害時に地域医療を守るのが災害拠点病院です。

もし私たちができない理由ばかりを述べて不要不急の外出を繰り返し、3蜜防止を守らなければ病院がコロナ患者で溢れ機能しなくなります。

院内感染になれば病院機能は完全に停止してしまいます。災害時の拠点病院などということは幻想となってしまいます。

4月18日読売オンラインでは「感染症の指定機関、都立墨東病院で新たに11人の感染確認・新規受入原則中止へ」の見出し。

すでに災害拠点病院に影響が出ています。

日本人の美德。人のことを考えましょう。今を生きる私たちは、この国を守らねばなりません。